

インドネシアの教員養成における 美術教育カリキュラムについて

—IKIP Jakarta, IKIP Bandung, IKIP Yogyakarta を事例として—

福田 隆 眞

On the Curriculum of Art Education as Teacher Training in Indonesia
- A Case Study of IKIP Jakarta, IKIP Bandung, IKIP Yogyakarta -

Takamasa FUKUDA

キーワード：インドネシア、教員養成、美術教育、カリキュラム

はじめに

- 1 IKIPについて
- 2 IKIP Jakarta
- 3 IKIP Bandung
- 4 IKIP Yogyakarta
- 5 まとめ

はじめに

本稿はインドネシア共和国の教育大学（IKIP）における教員養成の美術教育のカリキュラム研究である。この調査は1997年7月27日より8月8日までに、インドネシア共和国のジャカルタ、バンドン、ジョクジャカルタの各教育大学における調査であり、この派遣は日本学術振興会の平成9年度事業である特定国派遣研究者による成果報告の一部である。

インドネシアの美術教育に関する調査は、筆者をはじめとしてすでに平成7年度から幅広い視点で進めており、⁽¹⁾本稿では特に教育大学における美術教育のカリキュラムについての調査報告を行う。

1 教員養成について

インドネシアにおける教員養成は主に3つの教育機関でなされている。一つは教育大学であり、二つ目は総合大学の教育学部であり、3つめは教員養成単科大学である。

教育大学はIKIP (Institut Keguruan dan Ilmu Pendidikan) と称され、国内に10

大学が設置されて、以下がある。メダン教育大学 (IKIP Medan 北スマトラ州)、パダン教育大学 (IKIP Padan 西スマトラ州)、ジャカルタ教育大学 (IKIP Jakarta ジャカルタ特別州)、バンドン教育大学 (IKIP Bandung 西ジャワ州)、スマラン教育大学 (IKIP Semarang 中部ジャワ州)、ジョクジャカルタ教育大学 (IKIP Yogyakarta ジョクジャカルタ特別州)、スラバヤ教育大学 (IKIP Surabaya 東ジャワ州)、マラン教育大学 (IKIP Malang 東ジャワ州)、マナド教育大学 (IKIP Manado 北スラウエシ州)、ウジュン・パンダン教育大学 (IKIP Ujung Pandang 南スラウエシ州) である。教育大学は国内の教員養成の多くを担ってきている。

教育学部での教員養成は FKIP (Fakultas Keguruan dan Ilmu Pendidikan) と称され、現在以下の18大学に設置されている。シーア・クアラ大学 (Universitas Syiah Kuaka アチェ州)、リアウ大学 (Universitas Riau リアウ州)、ジャンビ大学 (Universitas Jambi ジャンビ州)、スリウィジャヤ大学 (Universitas Sriwijaya 南スマトラ州)、ベンクル大学 (Universitas Bengkulu ベンクル州)、ランプン大学 (Universitas Lampung ランプン州)、公開大学 (Universitas Terbuka ジャカルタ特別州)、スブラス・マレット大学 (Universitas Sebelas Maret 中部ジャワ州)、ジュンベル大学 (Universitas Jember 東ジャワ州)、タンジュンプラ大学 (Universitas Tanjungpura 西カリマンタン州)、パランカラヤ大学 (Universitas Palangkaraya 中部カリマンタン州)、ランブン・マンクラット大学 (Universitas Lambung Mangkurat 南カリマンタン州)、ムラワルマン大学 (Universitas Mulawarman 東カリマンタン州)、パティムラ大学 (Universitas Pattimura マルク州)、ウダヤナ大学 (Universitas Udayana バリ州)、マタラム大学 (Universitas Mataram 西ヌサテングアラ州)、ヌサチェンダナ大学 (Universitas Cendana 東ヌサテングアラ州)、ハルオレオ大学 (Universitas Haluoleo 東南スラウエシ州)、タドゥラコ大学 (Universitas Tadulako 中部スラウエシ州)、チェンデラワシ大学 (Universitas Cenderawasih イリアンジャヤ州) である。

そして教員養成の単科大学が2校ある。これらは STKIP (Sekola Tinggi Keguruan dan Ilmu Pendidikan) と呼ばれ、ゴロンタロ教育単科大学 (STIKIP Gorontalo 北スラウエシ州) とシンガラジャ教育単科大学 (STIKIP Singaraja バリ州) がある。⁽²⁾

これらの教員養成機関で教育大学は社会的にも多くの使命を果たしており、教員養成ではあるがそれらは多くの学部からなっており、教育内容の充実を図っている。基本的に教育大学には6つの学部があり、教育学部、言語・芸術教育学部、数学・理科教育学部、社会科教育学部、技術・職業教育学部、体育・健康教育学部からなっている。これらの学部には学科やコースが設置され教育内容の習得がなされている。それぞれの学科、コースは以下である。教育学部には、教育心理・ガイダンス、カリキュラム・教育工学、特別教育、教育行政、学校外教育がある。言語・芸術教育学部では、インドネシア語・インドネシア文学、英語教育、外国語教育 (ドイツ語、アラビア語、フランス語、日本語) 地方言語教育 (スダ語)、美術・工芸教育、演劇・舞踊・音楽教育がある。数学・理科教育学部では、数学、物理、化学、生物、数学・数理教育がある。社会科教育学部では、パンチャシラ道徳・公民教育、ビジネス教育、地理教育、歴史教育がある。技術・職業教育学部では、電気工学、機械工学、建築工学、家政教育 (調理、服飾) がある。そして体育・健康教育学部には、体育、健康教育・レクリエーション、指導員教育がある。⁽³⁾

このように各学部は教育内容を教員養成の基礎として教育課程が編成されている。しか

し、近年は教育大学の卒業生の教職の就職率が低下しているため、教育大学から総合大学への改組を試みているところもある。⁽⁴⁾

2 IKIP Jakarta

ジャカルタ教育大学の美術教育は言語・芸術学部にも所属し、教員養成を主に行っている。そのカリキュラムは以下のように構成されている。

美術教育に関する授業科目は以下である。⁽⁵⁾

芸術調査ⅠⅡ、芸術批評、美学、インドネシア美術史、東洋美術史、西洋美術史、基礎デザイン、写真、形態描画、モデル描画、造形解剖、製図、図法、透視図法、生産デザイン、視覚伝達デザイン、装飾デザイン、イラストレーション、絵画基礎、絵画、彫刻基礎、彫刻、印刷・グラフィック、基礎技能、応用技能、特別基礎研究、特別応用・展示研究、特別研究セミナー、芸術教育、教材開発、美術教育方法、教育評価、評価基礎方法論、評価方法、セミナー、植物描画、動物描画、板書、陶芸

このコースの定義として次のように記されている。

「美術工芸教育コースは言語芸術教育学部に属し、美術工芸教育のプログラムによって、この分野での社会において、教育と授業の経営、研究と貢献をするものである。」⁽⁶⁾

また、このコースの機能と役割については以下のように定めている。⁽⁷⁾

機能

- 1) 美術工芸教育コースは美術と工芸の分野における教育と授業の計画を立てる。
- 2) 美術工芸教育コースは美術と工芸の分野における調査研究の計画を立てる。
- 3) 美術工芸教育コースは社会奉仕の計画を立て、よりよい案内と育成をもたらす。
- 4) 美術工芸教育コースは学術的な力量の段階の育成のために、調査研究、セミナー及び専門家会議を計画、実行する。そして、より長期にわたって教育を研究するための努力や機会を与える。

役割

- 1) 美術工芸教育コースは学校や一般社会においてよりよい美術教育を行う役割をもつ。
- 2) 美術工芸教育コースは社会、特に学校と授業において、美術の分野での評価をもたらす。

このように教育課程の定める内容から推測すると、美術工芸教育が単に学校教育だけでなく社会的な機能や役割を果たすように促されている。私がジャカルタ教育大学を取材のために訪問した当日は、大学の休暇期間にあたり、美術工芸教育の教官、施設・設備等については、全く取材を許可されなかった。対応されたのは、副学長のHafid Abbasで教育課程の概略を説明されたにすぎなかった。氏は大学間協定を締結して、相互の学術交流を期待しているようであった。⁽⁸⁾

3 IKIP Bandung

バンドン教育大学もジャカルタ教育大学と同様な規模をもった教育大学である。美術工芸教育のカリキュラムも概ねジャカルタ教育大学と同様であり、その全体は以下のような構成でなされている。⁽⁹⁾

- ・一般教育科目
 - ・イスラム教教育、キリスト教プロテスタント教育、カトリック教教育、ヒンドゥー教教育、仏教教育、パンチャシラ教育、体育、環境・社会・文化・科学教育等
- ・基礎教育科目
 - 教育研究、学習指導論、教育経営、教育課程と教授論
- ・教育過程講義科目
 - 教育方法論、教育計画論、教育評価、教育実習プログラム、教育調査研究
- ・研究講義科目
 - 英語、絵画、美術史、デザイン、インドネシア語、工芸、製図、イラストレーション、美術理論、純粹美術、教育メディア、卒業研究、卒業試験
- ・発展科目
 - 美術理論、工房制作
- ・追加科目
 - 美術史、絵画、製図、デザイン
- ・選択科目
 - 美術史、工芸、絵画、製図、イラストレーション、デザイン、教育メディア

バンドン教育大学では美術工芸教育学科の学科長である Oho Garha に取材をし、バンドン教育大学の全体的説明と美術工芸教育学科の内容についての説明を受けた。さらに戦後のインドネシアでの美術教育の流れ、現在の状況、今後の美術教育の展望などについて取材を行った。⁽¹⁰⁾

それによると、インドネシアの美術教育は戦後に始まり、1945年には日本の教育制度が強制されたために、3年間はその教育課程の中で美術教育が実施された。一つの例として、日本は小学校の教師のために、黒い紙に白い絵の具で絵を描いた教則本を作成して与えた。これは黒板にチョークで描いたイメージを想定したもので、施設も用具もない時代の美術教育の教材であった。

戦後の教育課程の改訂で大きな転換になるのは1975年の改訂であり、それまでは美術教育は学校教育において単独の教科として実施されていたが、教科の統合が行われ、美術は音楽、体育、家庭科と統合された一つの教科となった。現在の「手工芸と芸術」教科である。1984年においても教育課程の改訂が行われたが、そこではますます教科の統一が図られ、まとまりが完全なものとなってきた。1994年の教育課程の改訂においても同様の形態がとられ現在まで続いている。こうした教育課程の改訂で問題となるのは、美術そのものの時間数が少ないということである。

また、インドネシアの大学教育では美術と美術教育の2つの種類が行われており、1947年にはバンドン工科大学に美術学部が設置された。バンドン教育大学は1961年の設置なので美術そのものの教育的役割のほうが社会的には重視されていたのであろう。このことはジョクジャカルタにおいても美術の専門学校のSARIが、後に現在のインドネシア芸術大学 (ISI) となったことから推測される。

現在のバンドン教育大学での美術工芸学科の状況としては、わが国の教育学部での美術教育とほぼ同様であるが、オーホ・ガルハは以下のような概略を説明された。学生数は1学年30名から40名で、実技の分野として、絵画、彫刻、工芸、デザインがあり、美術工芸学科も実技の重視をしてくている。その内容は伝統的な教材や基礎的な教材、そして現代

の特性を活かそうとしたものの両方が取り扱われている。伝統的な内容は工芸的なものが多く地域の素材を活かした教材が取り上げられている。(図1、2)

例えば、従来は卒業研究については美術教育の論文だけであったが、近年は実技の制作だけでも卒業研究として認定しているとのことである。現在は学生の約半数が論文で、半数が作品制作を卒業研究としている。この場合、制作の分野は2つに大別され、美術とデザインに分けられている。美術の分野には絵画、彫刻、イラストレーションがあり、デザインには工芸、グラフィックデザインそして教材、教具の制作が含まれている。このことは社会的要因が影響しており、インドネシアでの教員の給与の待遇の改善がなされていないことにより、教員志望の学生が減少してきていることもあげられる。従って、学生の就職先として、一般企業を志向し、デザイナーになる学生も徐々にでてきているとのことである。そこで、美術工芸教育学科の教育方針も若干の軌道修正をしてきてはいるが、現段階では、オーホ・ガルハは教育大学の教育目的としては、教員養成や美術教育の重要性を説いている。

教員養成は小学校教員養成の場合は2年半、中学校教員養成の場合は4年半の就学期間が必要とされている。半年間は教育実習に充当されており、実習校は附属学校と公立学校を使用している。半年間というのはわが国と比較すると長期間であるが、実質的には教科の実習は授業のある時間だけ実習に行くという変則的な実施をしている。

教育実習には教員免許の取得のためだけであるが、それとは別に、インドネシアの全ての大学生に課せられている社会的サービスの実習がある。これは、4週間を地域社会でサービスのために行う実習で、私も取材期間中に2箇所の実習先を見学することができた。一つはバンドン市内から60キロくらい離れた山村で、村の公民館のようなところに10名くらいの学生が宿泊し、地域の様々な問題にたいしてサービスを行っている。教育の重要性を村人に講習会を開いて啓蒙したり、手洗いの励行や飲料水の確保の方法、ゴミの対策など環境に関わるものを取り上げて、地域の要請に応える実習を行っていた。もう一つは、小さな町で実習を行っており、小学校の在学学生、中途退学の児童の動向調査、地区の人口調査、地図の作成など、本来は行政が行うような内容を大学生の実習として取り扱っていた。

バンドン教育大学はインドネシアの教育大学の改組が進行する中で、教育大学としての意義を重視して、よりよい教育内容を目指すように内容的改革を行っている。例えば、そのひとつにLPLと呼ばれる社会的なサービス部門のセンターがある。⁽¹¹⁾これは大学と社会をより密接に関連させるための研究実践機関であり、学内より45名の教官がセンターに兼任となり、様々な社会的要請に対して、その問題解決にあたる機関である。例えば、環境の問題であれば、環境教育の在り方の検討、個々の環境の問題の具体的解決策の提案、実施を地域社会に対してサービスするのである。社会と大学の窓口ともいえるような機関である。

また、教員養成の充実ということでは、現職教員の資質向上のための研修の実施を行っている。美術工芸学科では休暇期間を利用して、小学校、中学校の教材研究、実技の技術指導等を行っている。(図3、4、5)これは、実質的な資質向上の目的と教員免許の認定のための講習を兼ねている。こうした教員の資質向上の延長として、社会的な要請から地域の産業の振興を行っている人材も育成されている。例えば、中学校の教員をしながら、絵画の産業化として、絵画工房の指導にあたっている卒業生がいる。(図6、7)彼はバンドン郊外の絵画村で絵画の産業としての技術指導を行い、社会的な要請に応えている。

この絵画村では、小学校を卒業した職人が2、3年の技術修得によって、海外に輸出するための、いわゆる装飾的な絵画作品を製作している。1日に10枚程度の風景画をモチーフなしで、パターン化した構図で次々と仕上げて行くのである。(図8、9、10)単に技術指導であるが、他の手工業と同じ意味で、絵画が産業として成り立っているのである。

このようにバンドン教育大学では、教育大学の改組・改革に対して、教員の資質向上という観点でより質の高い教員養成を目指している。そのために美術工芸教育学科では全ての教官が美術教育の教材研究や教育方法を担当している。また、各表現分野での実技指導においても教材研究、教育方法を前提として授業内容を編成しているとのことである。その成果の一部として、小中学校の教科書の作成、出版を行っている。

4 IKIP Yogyakarta

インドネシアの教育大学の一つとしてジョクジャカルタ教育大学がある。ここは近年の大学改革によって教育大学から総合大学に改組している一つの例である。バンドン教育大学が内容的な改革に留まっているのに対して、ジョクジャカルタ教育大学は組織の改革を行ない、ジョクジャカルタ州立大学として生まれ変わろうとしている。⁽¹²⁾

美術教育においても総合大学としての新しい教育課程を準備しており、現在、準備段階で正式な印刷物になっていないが、その原案を提示してくれた。⁽¹³⁾それによると次のような授業科目によって編成されている。

- ・一般教育科目

イスラム教教育、カトリック教教育、キリスト教プロテスタント教育、ヒンドゥー教教育、仏教教育、パンチャシラ教育、基礎自然科学、国民の権利義務教育、英語

- ・一般専門基礎科目

インドネシア語、インドネシア社会・歴史、文化批評、美学、記号論

- ・専門基礎科目

美術調査研究、インドネシア美術史、東洋美術史、西洋美術史、図法製図、芸術解剖、モデル描写、研究方法、絵画、スケッチ、イラストレーション、陶芸、美術批評、芸術社会学、考古学、芸術経営、美術制作、卒業研究

- ・絵画専攻

絵画、肖像画、絵画研究、絵画教材研究

- ・彫刻専攻

彫刻、肖像彫刻、彫刻研究、彫刻教材研究

- ・グラフィック専攻

グラフィック、写真、グラフィック研究、グラフィック教材研究

- ・選択科目

自然形態絵画、肖像画、肖像彫刻、人形美術、コンピューターグラフィクス、造形実験
これが総合大学としての美術工芸の新しい授業科目案であるが、現実的には教育大学の現在の教官スタッフに変更がないために、現行の教官で担当可能な内容設定となっている。そこで現段階では従来の美術工芸教育の学科を2つのコースにわけ、純粹美術と美術教育としている。美術専攻が上記のカリキュラムによるものであり、美術教育は従来のカリキュラムによって教育がなされている。⁽¹⁴⁾

学生数は4学年総数で360名であり、純粋美術コースは来年度から学生募集をするとのことである。また、純粋美術のコースは視覚伝達デザインとプロダクトデザインの専攻も増設することを計画している。そして、修得単位数も現在の160単位から140単位に軽減するとのことである。こうした美術教育から純粋美術のコースの設置はインドネシアの経済状態や社会的要請に起因しており、小中学校の教員の給料の平均的水準が低いことが学生の教員志望を低下させている。近年の教育大学の卒業生は一般就職を希望するものが増加しており、特に民間企業においては給与の条件も整備されつつあるので、教育大学における教員志望の減少に拍車をかけていると思われる。

現段階での、美術工芸学科の施設設備などに関する教育環境は充分整備されている段階ではなく、今後、純粋美術のコースを充実するための環境整備が検討されている。学生の制作に関する内容は、わが国とほぼ同様であり、絵画、彫刻、陶芸、木工、構成、視覚伝達デザインなどがなされている。(図11~17)

5 まとめ

インドネシアの教育大学は現在、教育内容の改革、組織の改組など社会的要請に応えるために、変革の時期を迎えている。その要因として、経済成長による学生の教員志望の低下がある。実際に、民間と教員の給与格差によって、多くの学生が民間企業を志望してきている。教育大学で修得した教育内容が民間企業でも活かされるように、教育内容の充実や組織改革を行っている。ジョクジャカルタの教育大学がその例となるであろう。しかし反面、バンドン教育大学のように社会が変化するこの時期において、より教育の重要性を認識して、教員養成の充実、教育の社会的使命を果たそうとしているところがある。教育を学校教育の範囲でとどめるのではなく、広く社会に貢献できる教育的資質をもった人材の育成という観点で教員養成を行っている。社会的問題に応えるためのセンターの設置や社会的サービスのための実習はその例であろう。

また、美術工芸教育からすると、従来までの手工業、手工芸の産業のレベルから経済成長に伴う軽工業・重工業への転換に対応するために、科学技術との連携をはかるような教育内容の検討がなされており、教員養成コースと美術コースの併設によってより緊密な教育を達成しようとしているジョクジャカルタ教育大学の試みも注目される。

伝統的文化の教材という点では、バンドン教育大学もジョクジャカルタ教育大学も同様に重視している傾向がある。とくに教員養成の教育内容では、教育がもつ文化財の継承と文化の創造という観点で、伝統的美術工芸文化を教材化することによりその使命をはたしているように思われる。

教育大学における美術工芸教育が社会の変化に対応するために、今後も多くの改革、改組を迫られる可能性があるが、より高い資質の教員養成と社会に適応できる美術工芸の資質を有した人材の育成を促進するには、美術工芸教育への収斂と教育内容の社会的対応を考慮し、連携する必要がある。



図1 バンドン教育大学の学生作品
地域の素材を活かした工芸作品



図2 バンドン教育大学の学生作品彫刻



図3 バンドン教育大学での教員研修
バティック

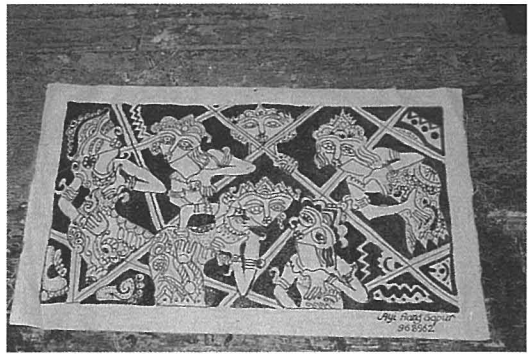


図4 バンドン教育大学での教員研修
バティック作品



図5 バンドン教育大学での教員研修
籐による工芸



図6 バンドン教育大学卒業生
アセップ・サンチャン



図7 バンドン郊外の絵画村
絵画製品の例

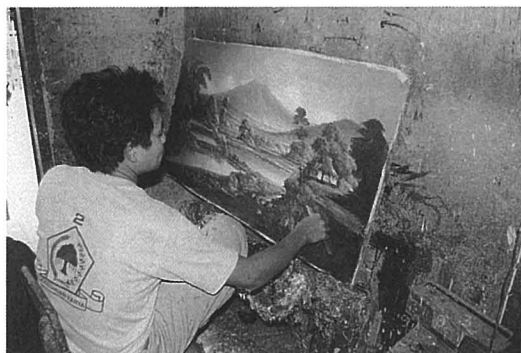


図8 バンドン郊外の絵画村
製作風景



図9 バンドン郊外の絵画村
製作風景



図10 バンドン郊外の絵画村

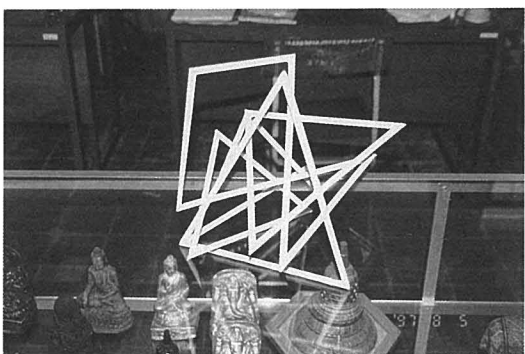


図11 ジョクジャカルタ教育大学
学生作品 立体構成



図12 ジョクジャカルタ教育大学
学生作品 彫刻

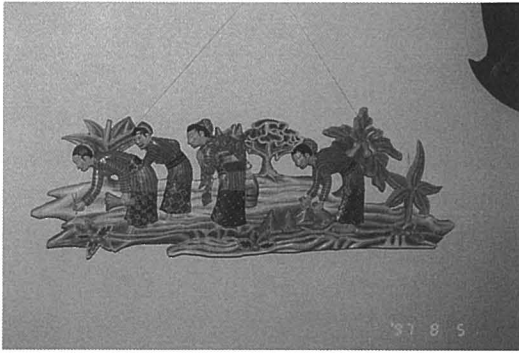


図13 ジョクジャカルタ教育大学
学生作品 木工と装飾



図14 ジョクジャカルタ教育大学
学生作品 絵画



図15 ジョクジャカルタ教育大学
学生作品 絵画



図16 ジョクジャカルタ教育大学
学生作品 木による工芸

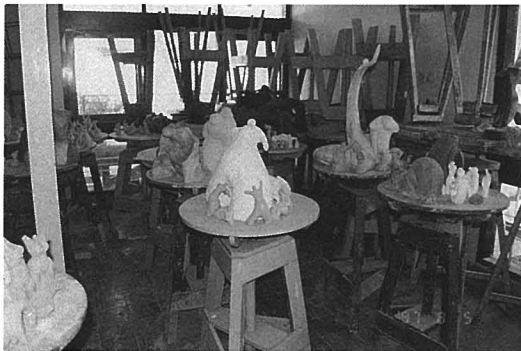


図17 ジョクジャカルタ教育大学
彫刻教室

注

- 1 インドネシアの美術教育の調査については、福田隆眞を研究代表者とし、研究分担者に小平征雄（北海道教育大学函館校教授）佐々木幸（北海道教育大学釧路校助教授）による平成7年度8年度文部省科学研究費補助金国際学術研究（学術調査、課題番号07041061）による「シンガポール、インドネシアにおける美術・工芸教育の調査及びカリキュラム研究」によって行われてきた。
 - 2 国際協力事業団インドネシア事務所 「インドネシア共和国セクター別・基礎資料 第四巻」 pp.245-254 1994
 - 3 バンドン教育大学の例。
 - 4 例えばジョクジャカルタ教育大学では州立の総合大学としての改組が始められてきている。（1997年8月の調査による。）
 - 5 DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN INSTITUT KEGURUAN DAN ILMU PENDIDIKAN JAKARTA, “BUKU PEDOMAN KEGIATAN AKADEMIK” TAHUN 1994/1995, pp.189-197
- この資料についてはジャカルタ教育大学の副学長 Hafid Abbas より贈呈された。
- 6 前掲5 p.187
 - 7 前掲5 p.187
 - 8 1997年7月29日、ジャカルタ教育大学における取材による。
 - 9 DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN INSTITUT KEGURUAN DAN ILMU PENDIDIKAN BANDUNG “KURIKULUM IKIP BANDUNG 1993 KETENTUAN POKOK DAN STRUKTUR PROGRAM” Tahun Akademik 1994/1995
 - 10 1997年7月31日－8月3日、バンドン教育大学における取材による。
 - 11 1997年7月31日の取材で、センター長の Soenaria Sasmita, A.M. の説明によるものである。
 - 12 1997年8月5、6日の取材によるものである。現在の段階では正式にジョクジャカルタ州立大学の名称は使用の許可が下りておらず、実績を見てからの実施になるとのこと。ジョクジャカルタ教育大学数理・自然科学学部長 Suhardi の説明によるもの。
 - 13 美術工芸教育学科の Hajar Pamadih によって提供されたカリキュラムである。
 - 14 従来の美術教育のカリキュラムについては、拙稿「インドネシアにおける美術教育のカリキュラムと実践」山口大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要第8号 pp.57-58 1997年を参照のこと。

参考文献

- ・国際協力事業団インドネシア事務所 「インドネシア共和国セクター別・基礎資料 第四巻」 pp.245-254 1994
- ・ジャカルタ・ジャパン・クラブ 「インドネシア ハンドブック 1995/1996年版」 1996
- ・Oho Garha “PERAN PENDIDIKAN SENI, DALAM MEMBINA PERKEM-

BANGAN ANAK-ANAK” DEPARTEMEN PENDIDIKAN & KEBUDAYAAN,
INSTITUT KEGURUAN DAN ILMU PENDIDIKAN, FAKULTAS PENDIDIKAN
BAHASA DAN SENI, JURUSAN PENDIDIKAN SENI RUPA, BANDUNG 1997
• Oho Garha ”KTK/PENGIGIKAN SENI DAN FUNGSINYA BAGI PERKEM-
BANGAN PARA SISWA” DEPARTEMEN PENDIDIKAN & KEBUDAYAAN,
INSTITUT KEGURUAN DAN ILMU PENDIDIKAN, FAKULTAS PENDIDIKAN
BAHASA DAN SENI, JURUSAN PENDIDIKAN SENI RUPA, BANDUNG 1997

付記

本稿は日本学術振興会の平成9年度特定国派遣による調査に基づいている。ここに日本学術振興会に感謝の意を表するとともに、実際の調査にあたり、下記の各位の協力を得たことをあらためて感謝いたします。

BAPAK SHIZUKA YOSHISATO, PRESIDENT PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK HENDRA HANDJAJA, PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK GANUNG ARUGO RASTOPO, PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK MASAO TAKENAKA, PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK HARIYANTO, PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK AGUS, PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK YUHARA SUKRA, DEPARTMENT PENDIDIKAN DAN KUBUDAYAAN
INDONESIA

BAPAK SEDIONO, DEPARTMENT PENDIDIKAN DAN KUBUDAYAAN INDO-
NESIA

BAPAK HAFID ABBAS, IKIP JAKARTA

BAPAK OHO GARHA, IKIP BANDUNG

BAPAK SUGIHARTONO, IKIP BANDUNG

BAPAK SOENARIA SASMITA, IKIP BANDUNG

BAPAK AGUS SADLIANSAH, IKIP BANDUNG

IBU HERNIWATI, IKIP BANDUNG

BAPAK SUHARDI, IKIP YOGYAKARTA

BAPAK SUGENG MARDIYONO, IKIP YOGYAKARTA

BAPAK HAJAR PAMADHI, IKIP YOGYAKARTA

BAPAK HIROYO SASAKI, JICA INDONESIA